令和４年度　第１回
松戸市総合教育会議会議録

令和４年１０月１２日

松戸市総合政策部政策推進課

令和４年度　第１回　松戸市総合教育会議
次　第

日時：令和４年１０月１２日（水）
午後１時００分から
場所：教育委員会５階会議室

１　開会

２　議事
議題１　松戸市総合教育会議運営要領（案）について
議題２　松戸市のスポーツ・文化環境について

３　その他

４　閉会

◎開　会

○谷口総合政策部参事

それでは、定刻となりましたので、会議を始めさせていただきたいと思います。

本日は、ご多忙の中、令和４年度第１回松戸市総合教育会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

本日司会をさせていただきます総合政策部の谷口です。よろしくお願いいたします。

それでは、開会前にお手元の資料を確認させていただきます。

まず、次第、席次、出席者一覧があります。次に、資料１といたしまして、松戸市総合教育会議運営要領（案）、松戸市総合政策会議議事運営要領新旧対照条文です。それと資料２といたしまして松戸市のスポーツ文化・環境について①が１枚、資料３といたしまして松戸市のスポーツ・文化環境について②が参考資料も含めて２枚、資料４といたしまして松戸市のスポーツ・文化環境について③が１枚です。最後に参考資料といたしまして、松戸市教育大綱となります。不足等はございますか。

では、ここからは　着座にて失礼させていただきます。

これより本郷谷市長に議事の進行をお願いいたします。

本郷谷市長、よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長

まず、会議開催前ではありますが、朝芽ちゃんが残念ながら、大変悲しい事件が起きました。みんなでいろいろな意味で応援したわけですけれども、残念な結果になりました。事故か事件か分かりませんが、二度とこういうことが起きないようにみんなで頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

まず、傍聴人についてご報告いたします。本日の会議では、２人の方から傍聴したい旨のお申出がありました。本会議につきましては、本日非公開にすべき事項がないことが見込まれるため、松戸市総合教育会議規定第７条に基づき公開とし、松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、傍聴人の受入を許可いたします。会議開会以降、傍聴希望者がいれば、随時入室を許可いたします。では、傍聴人を入場させてください。

（傍聴人入室）

○本郷谷市長

次に、本会議では議事録を公開したいと考えております。また、正確を期するため、録音につきましてもご了承願いたいと思います。今回の会議の議事録署名人につきましては、伊藤教育長、伊藤委員の２名にお願いしたいと思います。

それでは、これから令和４年度第１回松戸市総合教育会議を開会いたします。

◎議題１　松戸市操業教育会議運営要領（案）について

○本郷谷市長

それでは、次第に沿って、議事を進めます。まず、議題１、松戸市総合教育会議運営要領（案）について、事務局からの説明をお願いいたします。

○谷口総合政策部参事

それでは、松戸市総合教育会議議事運営要領（案）についてご説明いたします。２ページから構成されます資料１をご覧ください。４月１日付の教育委員会の組織改正及び人事異動に伴いまして、要領の第４及び第５の記載の陪席者と連絡調整会議の構成員に関しまして、生涯学習部審議監の追加、また、教育企画課長から教育総務課長への変更、あと全体的な構成メンバーを見直しする、事務的な改正となっております。また、資料１の２枚目の参考資料といたしまして、新旧対照条文をお示ししております。

事務局からの説明は以上でございます。

○本郷谷市長

このたびの改正は事務的な変更ですので、この要領（案）を承認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（一同了承）

○本郷谷市長

承認されました。

◎議題２　松戸市のスポーツ・文化環境について

○本郷谷市長

それでは、続きまして、メインの議題となります議題２、松戸市のスポーツ・文化環境についてに移ります。

昨年度開催いたしました総合教育会議では、子どもの健やかな成長において、地域の皆様方、いろいろな世代やいろいろな職種の方々がみんなで子育てと教育に関係していくまちをつくっていくことが必要であるという話になりました。

その中で、注目されるのがスポーツ文化に関する取組でございます。２０２１年に開催されました東京オリンピック・パラリンピックでは、多くの人々がスポーツ文化活動に触れ、その参画を通じて、楽しさや喜びを体感したことは記憶に新しいことと存じます。

本日は、松戸市のスポーツ・文化の取組として、子どもたちを中心とした部活動の取組状況、地域のスポーツ・文化団体の活動状況、大学や企業と連携した取組などを説明し、本市のスポーツ・文化環境の充実をさせていくための議論を行います。

進め方といたしましては、資料２から資料４を担当部署から説明した後に、意見交換を行います。事務局の説明をお願いいたします。

○谷口総合政策部参事

それでは、資料ごとにご説明させていただきます。まず初めに、資料２、松戸市のスポーツ・文化環境①について西川学校教育部長、よろしくお願いいたします。

○西川学校教育部長

学校教育部からは、資料２により、主に中学校部活動の現状についてご説明いたします。資料２をご覧ください。

スポーツ庁の有識者会議が、２０２５年までに公立中学校の休日の運動部活動を地域のスポーツ団体などに移行させる提言案を示したという記事が新聞をにぎわせたのは、今年の４月末の頃でした。この後、正式に運動部活動の地域移行に関する検討会議による提言が出されましたのが６月、文化部活動の地域移行に関する検討会議による提言が出されたのが８月でございました。

この２つの提言の共通項をまとめたのが資料２左上の囲みになります。少子化による廃部等で子どもの選択肢が減ることや教員の長時間労働などの課題に対応するため、部活動の在り方を抜本的に変えようと協議を重ねてきた会議の提言ですが、費用や保証に関する具体的な措置案はなかなか発信されず、一部では見切り発車と言われるような側面もあります。真ん中の囲みをご覧ください。

真ん中の囲みは、松戸市の中学校における現在の部活動の状況です。運動部と文化部、調査時期は若干異なりますが、中学校ではどんな種類の部活動が展開されているのか、どれくらいの子どもたちが参加しているのかなどの様子をお示ししてあります。

色のついた表を見ていただきますと、全体の約９割弱の中学生が学校の部活動に参加していることが分かります。残りの１割強の生徒というのは、学校外のクラブチームや習い事等に参加している生徒、特に何も参加していない生徒です。

中学校での部活動を進める上で現状の課題となっているのは、専門的な指導ができる教員ばかりではないということです。また松戸市では２０年ほど前から派遣している外部指導者や、国の方策として松戸市でもご活躍いただいている部活動指導員などは、共に十分な人数は確保できていないことが課題です。さらに、学校や部活動の種類、必要な用具の種類によっても異なりますが、部活動でかかる費用が高額な場合もあり、保護者の負担になっている例も少なくありません。

もう一つ、指導する教員側の課題として、手当の薄さが挙げられます。右下の囲みをご覧ください。教職員には特殊勤務手当というものがあり、部活動の手当はこれを基準に支給されます。表の金額は、千葉県が規定する現行のもので、週休日、つまり土曜日、日曜日の指導時間に応じた支給額となっています。２時間以上４時間未満では１，８００円、４時間以上は何時間やっても３，６００円という金額です。実際には、松戸市運動部活動・文化部活動ガイドラインにのっとり、各学校でガイドライン等に定めておりますが、そのガイドライン等により、休日の部活は原則３時間程度と定められておりますので、３

時間指導して１，８００円の支給、時給に換算しますと６００円になります。現在の高校生のバイト代が、今は１，０００円近くの金額で支給されています。そのような状況を鑑みますと、公立中学校の部活は半ば教員のボランティアで成り立っているとも言えるような状況でございます。以上でございます。

○谷口総合政策部参事

ありがとうございました。

次に、資料３、松戸市のスポーツ・文化環境について②について、藤谷生涯学習部長、よろしくお願いいたします。

○藤谷生涯学習部長

それでは、６ページ、資料３をご覧ください。私からは、生涯学習、市民スポーツという視点から説明させていただきます。大きく３つに分けまして、緑色とブルーが現状についての説明で、黄色が今後の方向性についての説明となります。

初めに、地域の現状、地域の人材、団体・個人・行政等について、左の一番上のとおり、松戸市の大きな強みとして、多くのスポーツ団体や文化団体が市内にはあるということでございます。主なスポーツ団体として、４２種目、４３３チーム、団体に所属している方々は、８，１７９人という現状です。

参考までに１枚おめくりいただきまして、７ページの右側をご覧いただきますと、代表的なスポーツ団体と会員数の記載がございます。こちら、テニス、サッカー、バドミントンといった代表的な種目から、相撲、アマチュアゴルフ、ライフル射撃など多様なスポーツ団体が市内にはございます。もちろん私どもが把握していない、他の活動をされている方もいらっしゃると思うので、実際はもっと多くのスポーツ団体があると思います。

次に、社会教育団体は、同じく７ページの左側をご覧ください。主な社会教育団体は４６５団体あり、音楽、美術、書道、ダンス、あるいはボーイスカウト等、多様な社会教育団体がございます。こちらにつきましても、市の登録をされている団体を中心に書いておりますので、この他多数の団体がございます。

６ページにお戻りいただき、社会教育団体の下で、その他にも、地域でスポーツ・文化環境を支えていただく団体といたしまして、地域の子ども会、スポーツ少年団、クラブチーム等がございます。

そうしたものに加えて、地域のスポーツを支える代表的な制度が２つございます。１点目は、スポーツ推進委員です。こちらは、独立した活動を行っていますが、町会や自治会からの推薦をいただいていることもあり、連携をして活動しています。主な活動は、各地区の小学校や公園等で軽スポーツ、大会、体力テストなどの開催を行っています。あるいは地区の市民運動会等を町会等と連携して実施しています。２点目は、国の制度ですが、総合型地域スポーツクラブになります。現在、市内で活動しているところで２か所、小金原地区のすぽ・かる小金と矢切のスポーツクラブがあります。地域の方々による自主的、

主体的な運営により、様々なスポーツ競技や講習が開催されているところでございます。

右の下に移りまして、環境面では、スポーツや文化活動の体験機会や、関心を持つきっかけづくりにも取り組んでいます。特に子どもたちに対して、青少年教室など多様な体験の機会の提供、美術展、書道展、博物館アワードなど、子ども対象の事業を実施しています。学校の授業では、夢の教室として、オリンピック終了後も、オリンピアンによる小学校での授業を行っています。そのほか、年齢を問わず多様な文化に関心をもつ機会を提供しています。指定管理者によるスポーツ施設でのスポーツ教室等も盛んに行っています。

施設面では、資料の中央、スポーツ・文化施設にまとめています。まず、主なスポーツ施設と書いている部分には、代表的な大型施設について、他市と比較して掲載しております。特にピンク色の柏市、あるいは鎌ヶ谷市と比較しますと、松戸市には、サッカースタジアムなどの大型施設がないという現状になります。右側のブルーと白になっているところは、市民スポーツの練習や大会等を実施する代表的な場所を記載しています。数的には他市と比べてほぼ同等ですが、内容的な充足が必要だと考えています。

その下にいきまして、学校を活用して、学校体育施設の開放事業を行っています。こちらは市内の小・中学校６５校の体育館や校庭を開放して、市民のスポーツ活動の場として活用をいただいております。各校に利用団体で構成した運営委員会を設置し、運営はそれぞれの学校の地域の実情に応じて異なります。平日、土日祝日、夜間２１時まで開放しており、令和３年度の実績は、小学校で５４９団体、中学校で２４０団体の利用がございました。

真ん中の右側をご覧ください。青少年会館では特にスポーツ広場で、予約なしに小学生が放課後に自由に楽しむ場として、毎週水曜日の午後に体育室を開放する事業を実施しております。１人でも、友達同士でも自由に使える体育施設として、そこにスタッフも配置しています。現在では平均で１５名から３０名ぐらいご利用いただいています。

その下にいきまして、その他には、特に子どもたちへの支援という部分で、文化については、戸定歴史館、市立博物館、松戸運動公園、新松戸プール等、入場料無料という施策を取っています。

右側に記載の今後の方向性について、大きくは３点、記載させてしております。

１点目は、地域連携の拡大・充実について、先ほど学校教育部長からも申し上げました部活動地域移行の受皿としての検討を進めてまいりたいと考えています。ここに書いています団体からの意見聴取についてはスタートしており、１０月５日に、団体への説明と意見を伺う機会を持ちました。文化団体、スポーツ団体、それぞれ５０団体ほどご参加をいただき、様々なご意見を既にいただいています。さらに指導者の育成支援で、安全面やリスクマネジメントも含めた必要なものを検討していきたいと考えています。

２点目は、スポーツ施設の充実です。特に若者、青少年をターゲットとした多様なスポーツ推進の中で、資料に例示したように、３×３、ＢＭＸ、スケボーなど、ニュースポ

ーツ専用の施設が不足しています。今年度は運動公園にスケートボードの施設を整備し、今後も多様なスポーツの推進を進めてまいります。それから、先ほど申し上げた日常的な市民スポーツ施設の不足を補う新規のスポーツ施設の検討や既存施設の充実も図ってまいりたいと考えています。

３点目は、体験機会の拡大・充実です。地域の団体との連携や、実業団との連携等、さらに拡大・充実し、きっかけづくりを図ってまいりたいと考えています。特に青少年会館等の子どもが利用するスポーツ施設は、自由に使えるスポーツの入り口として、拡大・充実等を進めてまいりたいと考えています。以上でございます。

○谷口総合政策部参事

ありがとうございました。次に、資料４、松戸市のスポーツ・文化環境③について、伊東総合政策部長、よろしくお願いいたします。

○伊東総合政策部長

資料４をご覧ください。私からは、松戸市のスポーツ・文化環境に関する取組について総合的な視点でご説明いたします。本市は大学や企業、プロスポーツチームなどとの地域間連携を充実させ、身近な地域でスポーツ・文化を体感してもらうように取り組んでおります。将来の目指す姿としては、スポーツ・文化活動の自発的な参画を通じて、楽しさや喜びを感じ、地域の持続可能で多様な環境において、多様な体験機会を確保するとしています。こういった動きの背景には、３つの理由があると考えております。

１つ目は、新型コロナの影響でリモートワークを中心とした働き方改革が急速に加速したことです。これまでの東京を中心とした通勤形態にも変化が起きつつあり、本市のような首都圏のベッドタウンは、必要なときに東京に出向くという働き方が主流となる可能性も見込まれます。これまで以上に地元で過ごす時間をいかに充実させられるかという政策が必要となります。

２つ目は、学校を離れたときにもスポーツ・文化活動が充実すれば、家庭、学校のほかの、いわゆる第３の居場所機能を担うこともできるということです。

３つ目は、文部科学省より既に学校の部活動の指導や運営を民間クラブなど、学校の外に委ねる方針が示されていることもあり、受け皿となる地域の組織や活動の充実が求められていることです。具体の取組として、本市では近年、プロサッカーのＪリーグのような地域に根差した競技団体、具体的には資料にございます①番の陸上の日立物流、②番のサッカーの柏レイソル、③番の野球の千葉ロッテマリーンズ、④番のラグビーのＮＥＣグリーンロケッツと連携協定を締結するなど展開しています。先月には、テラスモール松戸にて、松戸ファンフェスタと題したイベントも実施しました。その模様は⑤番から⑩番までとなり、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承するため、パラリンピック競技の普及にも取り組みました。

また、⑪のように、日々慌ただしく子育てを行う子育て世代向けに、ツイッターを用

いて、市ゆかりのスポーツ選手についての情報発信を行い、⑫から⑭のようにＳＤＧｓや地域共生をテーマとして、市内大学との連携も強化をしているところでございます。

最後に、本市では令和４年度から新しい総合計画がスタートしており、不確実な社会環境の変化と未来に向けた戦略として、２０３０年に多様性が幅広く受け入れられている未来を創造していくことを目指しております。多様な人たちが生活しやすいまちづくりのためにも、スポーツ・文化環境の充実は大変重要な政策として取り組んでいるところでございます。以上でございます。

○谷口総合政策部参事

ありがとうございました。ここからの意見交換に先立ちまして、事務局からお願いが２点ほどございます。

１点目は、議事録作成の関係から、ご発言の際にはお名前をおっしゃってからご発言いただければと思います。２点目は、皆様に音声が伝わりやすいように、できるだけマイクに近づきましてご発言いただきますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長

それでは、意見交換の前に、今説明のありました内容につきまして、何か質問があればお受けしたいと思います。

○和座委員

８ページ、⑪番に記載の「ツイッターで子育て世代向けに市ゆかりのスポーツ選手の情報を発信」とありますが、子育てに何か関係したような発信なのでしょうか。もう少し具体的にお話ししていただきたいです。

○伊東総合政策部長

⑪番の取組につきましては、先ほど生涯教育部長から夢の教室の話がありましたが、オリンピック・パラリンピックの出場選手、あるいはプロスポーツで活躍した選手は、困難なことを超えた経験がたくさんあります。松戸市としては、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピックの取組を通じて、スポーツ選手が日々どういったことに努力されているか、結果を出すためにどういうチャレンジをしているかなど、丁寧に発信することを心がけております。その中で、市ゆかりの選手を身近に感じてもらうために、オリ・パラのレガシーを承継するということも兼ねて、ＳＮＳでの発信を続けています。

○和座委員

つまり子育てとの関わりはそれほどなく、３０代、４０代の無関心層に向けての発信ということですね。

○伊東総合政策部長

はい。

○本郷谷市長

そのほかに何かありますか。

○武田委員

資料２のところで文化部の一覧について、１３、１４番の創作部、文化部は、初めて見るので、活動内容や何校実施しているのかを教えてください。

○菊地学習指導課長

１３の創作部は、主に校内の掲示物を作成しています。もしかすると、１０番のパソコンの中にもそういうことをしている部活があるかもしれないです。１４番の文化部は、美術と科学を合体したような活動をしていると伺いました。生物の世話や簡単な実験をしています。なので、５番の科学とも関わるところがあるかもしれません。実施校はそれぞれ１校だったかと思います。

○武田委員

ちなみにどういう先生が顧問をなさっていらっしゃるのですか。

○菊地学習指導課長

生物に関係するのであれば理科の先生、校内の掲示物作成ですとパソコン技術にたけている先生などが担当していると思われます。

○本郷谷市長

また質問があればそのときにしていただければと思います。

資料は１、２、３とあり、1つ目は中学生の部活動の地域移行について、２番目が一般的なスポーツの活動について、３つ目がスポーツを通じた地域連携についてと分かれています。それぞれについて、色々な意見を言っていただくというのがいいと思いますので、よろしくお願いいたします。まず、中学生の部活動の地域移行についての意見をお伺いします。

○伊藤委員

運動部や文化部活動の地域移行については、国レベルで提言が出て、若干試行錯誤的になるのかもしれませんが、そうした方向に進むのだろうという感じがしております。ただ学校単位での大会出場とか、それを通じて母校愛を高めるとか、これまでの取組でいい面もありましたので、それが今後どうなるのかと思います。提言案によれば、そういう大会も学校だけではなくて、地域のスポーツ団体等も参加できるような大会にしていくという方向が出ています。それは当然だとは思いますが、その場合、１つの学校が１つの地域へというのではなくて、複数の学校が１つの地域に収れんしていくというようなこともあり得ると思います。どういう形で大会に出場するのか分かりませんが、学校に対する母校愛などが若干薄れていくと、杞憂かもしれませんが心配しています。

それから、平日と休日で分かれるようなことになり、平日は学校の先生や専門に招聘される指導者がやり、休日は別の地域の指導者が指導するとなれば、受ける生徒の立場か

らすると混乱が生じるのではないかと感じます。その辺をうまく整理しないといけないと思います。

それから最後に、学校の先生の中には児童生徒に自分の培ってきたスポーツや文化の経験を生かして指導に当たりたいと、そういう熱意を持って学校の先生になられる方もいると思います。そういう人たちに対して、今回の制度の改正を受けて、どのようにしていくのか。もちろん本人の希望ではありますけれども、平日の指導だけでなくて、休日もその人が指導できる体制について、どのように手当していくのかについても検討する必要があると思います。

○山形委員

日本の中学生の教育の中で、どこの都道府県でも内申書が採用されています。その中で、広島県の平川教育長が、内申書の在り方を部活動に依存したものではなく、子ども一人一人の個人のポートフォリオを有効化したようなものに県全体として変えていったことを提唱されました。松戸市も、千葉県や国も変わっていくとは思うのですが、内申書と部活動の関係性は根深くあると思います。私はもともと保護者委員としてここに座らせていただいており、保護者自身も子どもが部活動をしていないといけないとか、子ども自身もそういうプレッシャーを受けている部分とかは、あると思っています。コロナを経て、部活への熱がかなり変動する中、部活動が子どもの幸せのためにあるということを軸として考えていく教育体制があるといいと思います。資料では８７．８％の子どもが部活動に入っているとありますが、入っていない子どもに関して、地域でのサポートが広がるといいと思います。

一方で、指導者については、先ほど伊藤委員がおっしゃったように、学校と地域で違うとか、関わる大人が増えることはいいことでもあるけれどもマイナスの部分もないように指導者に研修をするとか、特に体罰について理解できていない方もいらっしゃると思うので、そういう部分をしっかりと丁寧にサポートしながら、部活の地域移行を考えていかないといけないと思います。

学校選択制の中についていろいろな保護者の方と話をする中で、部活動がその学校にあるから選択するということも聞いたことがありました。少子化の中で国がこのような制度を考えていますが、松戸市の人口規模では、他の自治体に比べたら、部活動が成立しなくなることはあまりないと思います。学校が開かれ、部活動が地域に開かれる中で、先ほど武田委員がおっしゃったような創作とか文化などの部活動については、保護者も生徒も全然知らないで学校を選んでいるような気がしますので、地域移行に焦点を当てるだけでなくて、子どもたちが自分らしさを活用できるようなオープンな姿勢、例えば学校内での部活動を周知していくことも同時並行として検討していただけるといいと感じました。

○中西委員

地域移行のご説明の中で、見切り発車というような発言もありましたが、世の中の流

れはそうなってきていることは間違いないわけです。そういう中で、資料２の運動部・文化部の数字について、参加人数は出ていますが、学校単位で部活動数がどれぐらいあるかなど、マクロで考えなきゃいけないことと、ミクロで考えなきゃいけないこと、両方があると思います。例えば、どの地域にどのような部活がどれぐらいあるかなど、地図に落としてみたことがあるのかとか、全体としての状況把握ができているのかというのが気になりました。

それは、資料３とも関連し、地域のスポーツ団体や文化団体のチーム数が書いてありますが、全体の数だけでは分からない部分もあると思います。部活動と地域の活動が本当につながるのを可視化できれば、今、山形委員がおっしゃったように、子どもたちにとっても、保護者にとてもメリットがあるし、一度可視化してみたらこうだと分かることもあるかもしれないので、その辺は検討していただきたいと思います。

○和座委員

地域移行について、運動部の活動と文化部の活動があるわけですが、私、文化部についての話をしたいと思います。地域移行をする場合の非常に大きなメリットは、様々な職種の人たち、多様な人たちが子どもの教育に関わるということが一つあると思います。例えば美術で言えば、実際に絵を描いている、あるいは創作をしている、そういった芸術家ですばらしい方たちが市内にもたくさんいらっしゃいます。そういう人たちに話を聞いてみたり、一緒に創作してみたり、そういうことが子どもにとっては大きな刺激になると思いますし、教師以外の様々な人が関わってくるという意味でも重要だと思います。

それから、私たち医師会は街っこプロジェクトといって、学校に行って子どもたちに生命について話したり、あるいは感染症について話したり、あるいは認知症について、子ども達みんなで考えたりしているのですが、科学や生命についての話を専門家である医師がするというのは、教師が話すのとはまた別の観点から、子どもたちにとってもインパクトがあると思います。そういう意味でもっと進めていく必要があると思います。

例えば演劇も、俳優たちや演出家と子どもたちが話をしたり、実際にその演劇を見たりするだけでもいいと思います。それはすごくインパクトになるし、多様な体験ができます。文化部の場合にはそういう意味で非常に見えやすいと思います。

その一方で、運動部については、心配な点があります。私が常に話している「体罰」や「子どもの人権」についてです。先生方の中にも少しずつ理解が浸透してきていて、昔のように根性ものの特訓を毎日やっていくというようなことは少しずつ減ってきています。ただ、地域に部活動を移行した場合に、地域の方の中にはまだ精神論で指導していく人たちも多いと思います。そういう方たちに対しても、「体罰や子どもの人権」についてしっかりと話していくことが重要だと思います。これらの話は、教育者だけじゃなくて、親、PTA、地域の方たちに対しても十分理解いただく必要がある話なので、部活動の地域移行の機会にそれをやっていくことが、逆に言うとすごくいいことだと思います。

ＡＥＤなどもリスクマネジメントの部分で非常に重要だと思います。どこの施設にも置くべきものだと思います。さらに心肺蘇生の話なども、部活動の地域移行を検討する中で、様々な人たちに知っていただくことも重要だと思います。例えば心停止してから心肺蘇生を完全にできる蘇生率が通常は１０～２０％ですけれども、シアトルでは多くの方たちへの啓蒙が行き渡り、蘇生率は４０～５０％になっています。そういうベクトルでも進めていくことが、部活動の地域移行の中での副産物として出てくるのではないかと期待したいです。

最後に、教職員手当の話がありました。確かに時給６００円はあまりにも安過ぎます。この点についてもしっかりと手当していくことが働き方改革の部分でも必要です。今回こういうところに焦点が当たったことによって、先生たちの収入や地位、経済的な部分に対しての保障も十分に手当していくことで、子どもたちが質の高い教育を受けられる方向につながると思います。

○武田委員

部活動の地域移行は、先生方、親、子どもと、皆が漠然と考えている方向性は違うと思います。これをきっかけにどうあるべきかを考える大きなチャンスだと思いますので、まず現場レベルでの意見やアイディアを集めることを第一にしたほうがよいと思います。その中では、子どもたちの気持ちや先生たちの気持ちが最初にならなければいけないと思います。

それを踏まえて、私たちに何が言えるのか、何が考えられるのかを考えていました。運動が上手な子は、サッカーをやる、野球をやるとすぐさま思いつくでしょう。しかし必ずしもそういう子ばかりではないというのが現実です。では運動が苦手な子が文化部にいくというのも違うと思います。私は、部活動は、学校を離れても生涯にわたって続けていけるものを見つける手段、出会う手段であってほしいですし、その経験を糧として人生を豊かにしてほしいと思います。子どものときにできる「享受」という経験をたくさんしてほしいと思っています。

そう考えると、例えば部活動の活動内容が毎日同じとかじゃなくて、学年ごとに変わってもいいし、活動が年に１回でもいいし、月に１回でもいいし、週に１回でもいい、１年に１回のシンポジウムを開くようなものでもいいし、多様な形での部活というものがあってもいいと思います。

自発的にやるという行為だけじゃなくて、先ほど和座委員もおっしゃっていましたけれども、見るとか、聞くとかという受講型で、物事を知る手段としての部活もあってもいいと思います。

この資料を読み込んでいくときに、社会団体の方が好意的だという話を聞いて、とても嬉しく思いました。その中でも、教えることに対するハードルもあると思います。継続的には難しいけれども、例えばオンラインで、子どもたちに対して、子どもたちにとって

は初めて目にするものや耳にするものを与えられるような講話もいいかと思います。演劇鑑賞となると、学校の体験授業として興味がある子もない子も一斉に見ることになりますが、部活として演劇を見るのが好きという子が、熱意のある話を聞けたり、より専門的な話に広がったり、聞いたり、それがいつかどこかでその子の人生の職業になっていったり、そういうことにつながったら有効的な部活と言えるのではないかと思いました。また学校単位ではなくて、オンラインを通じた他校との意見交換であったり、交流の場にもなったりすることも考えられると想像しました。

あと、私自身が戸定邸を愛してほしいという気持ちが大きいのですが、子どもたちは行ったことがない、知らないという子が結構多いのです。松戸市の強みを活かしていくうえでも、さらに千葉大学園芸部もあるのだから、千葉大学の先生と関わりを一度でも持っていただく。年に１回でも戸定邸の復元の工程と自分たちが共に育っていく時間軸と照らしながらレクチャーを聞くというようなことがあったら、すごく心に残る体験になると思います。

あるいは今、変化に向けたコンテンツをつくってくださっている状況にあると思います。ＩＣＴを活用して、戸定邸の庭が変わっていく状況から、目で学ぶこと、そういったものがどこかに反映するような、二次的な職業体験につながるような効果も狙えたらいいなと思います。

さらに山崎直子さんが毎年文化祭のときに講演等をしてくださっていますが、みんなに開かれた講演会もいいのですが、科学部の子たちなどもっとより専門的に聞きたい子どもたちに対して、オンラインなら対談が可能なのかもしれない。参加者が各校に５人しかいなくても、全２０校では結構な人数になるので、そういうものを集約した形での部活を模索できたら素敵だと思います。

さらにもう一つ、考えなければならないのは何も興味が見当たらない子どもたちのことです。実は、私の姪が野田で中学校の教員をやっていて、ボランティア手芸部という部活を任されていますが、何をしていいか分からない子たちがそこに集まっています。実際何をするのかというと、例えば卒業式の時の体育館の装飾について子どもたちに意見を求めて飾りをしたり、運動部が大会で優勝して大きな大会に出場する際にみんなで鶴を折って応援時のディスプレイマットを作ったりなどをしています。ボランティア手芸部というのは、ボランティアの気持ちで何か手作りしてやれることをやりましょうという部活で、最初は発言も何もなかった子どもたちが、今度はこういうのやりましょうと提案するようになっているそうです。先ほど、創作部と文化部についてお聞きしたのは、何やら近いようなものが松戸にもあるのかと思ったためですが、学校掲示物部など最高にいいと思うのです。こういうボランティア精神でやるものが、各学校にあったらいいなと思います。広報部でもいいですよね。そういうものがあると、いろいろなものに目を向け、情報収集するというスキルにつながり、大人になったときに役に立つ気がします。何をしていいか分

からない子ども、スポーツも上手なわけでもないしという子どもの中で育つスキルとしては、一つの在り方かもしれないと何となく夢を見てしまっていますが、できたらいいなと思います。

○伊藤教育長

いろいろな視点やご意見を伺いながら、いろいろな面から考えなければいけないときにきていると改めて感じました。先日行った部活動の地域移行の説明会の中で、ある団体の方が、私たちはどうすればいいですかという質問をされましたが、地域も、一律思考の考え方をする人のほうが多いと感じました。

部活動を地域に移行にするという提言もある意味では一律です。でも、一律的な思考では、うまくいっていないので今の提言が出ているわけで、今回の部活動の地域移行については、私は地域の文化、スポーツ環境の在り方の改革になると感じています。

ハード面でも、集客を考えながら取り組まなければいけない文化施設やスポーツ施設と、市民の皆さんが身近にやれる環境・見られる環境のための施設に分けて進めていけないと感じます。部活も、先ほどあったように、毎日のように顧問がついて学校で実施という固定観念は崩さなければいけないと感じます。月１でも週１でも部活、先生が教えなくても部活、学校でやらなくても部活、子どもも教員も保護者も地域の皆さんもこれまでの感覚を変えなければいけないときにきていると感じています。

○本郷谷市長

この問題のベースは、中学でも高校でも、学校がスポーツの中心になっているためで、学校内のクラブしか参加できないし、多様性といっても結局どこも限定されるといます。小学校までは地域のスポーツ活動なども盛んで、多くの子が地域で活動していますが、中学になると学校の部活が中心になってしまうから、地域で活動する人が少なくなってしまいます。

部活動の地域移行の問題は、少子化、先生方の長時間労働、地域人材の活用など、いろいろな問題が絡んでいます。今の方向性でどこまでやるつもりなのかは、この文章だけみると、地域移行は土日で、平日は学校の先生が今と同じような状況となり、現実的にわかりづらい感じはします。

大きなフレームの中の一つかもしれませんけれども、例えば、地域の中に、サッカーだってトップレベルのサッカーから本当に遊びのサッカーまであっていいわけで、市民の中にたくさん専門家がたくさんいますので、そういう人たちに専門でやっていただく。

学校では、たくさんの部があって、先生がすべての専門家ではないわけで、そういう意味では活動を地域に広げていった方がいいかという気はしています。とは言いながら、今すぐにはなかなか難しい話なので、少しずつ前へ進めていくことかなと思います。

○中西委員

今、お話を伺っていて、資料３の別紙として一覧となっている社会教育団体やスポー

ツ団体について、これだけの数があるので、これを子どもたちに見せたら、関心を持つ子はいると思います。今の学校で提供できる部活動よりも範囲が広いと思います。地域でいろいろなことができることを知る、子どもたちがアクションを起こしたいときに教員がフォローしてあげるという、そういう動きができればいいと思いました。

○山形委員

中西委員の意見に賛同します。地域移行する中での子どもの安全性、例えば移動時間のサポート、地域の方への体罰や人権感覚の醸成などが必要だと思います。また、費用に関して、部活動って文化部だと、吹奏楽部だとかなり何十万の楽器を買うケースもあったり、運動部でも遠征などがあったり、費用がかかります。

私の娘が行っていた学校の美術部は、ＰＴＡ会費から部活動支援費があり部活費用はなく、ＰＴＡ支援金だけでした。その一方で、サッカー部やバレー部は年間数千円、吹奏楽部は年数万円かかっていました。子どもがやりたいと思っても、保護者にお金を欲しいと言えないとかもあります。地域に対して資金面も含めた形で子どもの選択肢の一つとしてしっかり機会が与えられるような地域移行ができるといいなと思いました。

○本郷谷市長

追加で何かありますか。よろしいですか。次に、松戸市のスポーツ・文化環境について、生涯学習部が担当している学校以外のスポーツ・文化について、意見があれば、述べてください。

○伊藤委員

今回この資料を見させていただいて、松戸市内の社会教育団体やスポーツ団体がこれだけたくさんあるということを知らなかったので、驚きました。松戸市民の方が、いろいろな社会教育団体やスポーツ団体の会員となって、いろいろな趣味を活かすため、あるいは自分の健康や体づくりなどの動機で参加されていることは非常にいいことだと思います。他方、松戸市の人口比で見たときに、この数が果たして比率で言うと、多いのか少ないのかというのは分からないと感じます。

民間団体がいろいろな活動をしていることに対する松戸市の役割についてですが、市としてこれらの団体にさまざまな支援をして少しでも多くの市民が参加できるようにしていくことも必要ですし、市独自にスポーツ施設や文化施設を充実させていくことも必要だと思います。これは費用もかかることですし、今すぐ、施設をつくりますというわけにもいきませんが、今ある施設でいかに市民が使いやすくできるか、使用比率を高める努力をすることが大事だと思います。

また市民の中には、休日に気軽に運動やスポーツをしたいけれど、そのためにスポーツ団体に入るのは気が進まないという人もいると思います。そのため気が向いたときに何か気軽にスポーツができるような施設、大きな施設や充実した施設である必要はなくて、公園とかに何かそういうことができるような施設を市で用意をしていただく。

さらに、それが果たして十分なのかも点検していくことも大事です。江戸川の堤防は、非常にいいジョギングコースにはなっていますが、施設面でもう少し魅力的なものにするとか、市のほうで工夫して提供していけると、松戸市のスポーツ環境のレベルが上がるのではないかなと思っています。

○武田委員

昨年から始まった音楽フェスティバルは、非常に大きな成果を上げていると感じています。社会団体については、私も今回初めて数や規模を知りました。文化祭などを視察するまでこんなにたくさんレベルの高い団体があることを知りませんでした。発表時の熱意を見ると、皆さん、発表の場を求めており、文化祭にかける情熱をものすごく感じます。私たちが見にいくと、すごい勢いで説明してくださって、こんなに熱心に活動されているのであれば、もっと発表の場があったらいいとか、少し門戸を開く努力をこちら側が提供していくことの必要性を感じます。団体に入ったり、所属したりすることに対するハードルや費用は想像がつかないのですが、居心地は人それぞれだと思います。文化祭や音楽フェスティバルでいろいろな一般の方が参加してくださっているのを見ると、松戸市は人材が豊かで、まだ発掘の余地があると、頼もしく思います。

この午前中の会議ではスポーツ推進計画の話がありました。スポーツ施設については、近隣市よりも規模的にタイトで、そうなると当然利用時間に波及する部分もあると思います。何か工夫して、運動公園を夜間も稼働させるとか、ナイトランを推進するクラブをつくるとか、今あること、できることを模索し、より充実してほしいと思います。

スポーツでも文化でも関わる人口が増えれば、運動の場や展示施設の場の充実についての要求も高まり、その流れから検討していくことになると思います。

○山形委員

この資料３を読み、松戸と他市とのスポーツ施設の比較で、小さい施設しかないと思いながらも、松戸の市民たちがスポーツに関してどのぐらいのニーズがあるのかというと、子育てで忙しい、時間がないという現状もあり、伊藤委員がおっしゃったように、今あるものでできることをすることが大事だと感じます。

その中で、私は、２１世紀の森と広場の近所に住んでいるのでよく散歩に行きますが、音楽フェスティバルなどで活性化しており、以前よりも人が増え、にぎわいを感じています。オープンソースである施設の活用、例えば、公園、おやこＤＥ広場、学校の体育施設の開放、青少年会館のスポーツ広場などもいいなと思いました。学童クラブとの連携などをしながら、子どもたちがもっと伸び伸びと過ごして、スポーツと触れ合うような機会やチャンスなど、今あるものでも実施できる可能性は十分あります。子育てで忙しく、目の前のことで一生懸命になっている保護者に身近なところで関われるもの、関わるチャンスが増えるといいと思いました。

あと先ほど武田委員がおっしゃった７ページの社会教育団体の文化祭について、私も、

見学して本当に熱意のある方たちだと思う一方、高齢化が気になりました。社会教育団体のデータを見ると、子どもの会員数が少ないですね。書道や合唱は大人に混ざれるけれども、ペン字や油絵など、月に１回とかでも親子で参加ができると、親子にとってのサードプレイス化につながると思いました。親自身も孤立している部分もあり、ここの社会教育団体が親子を月に１度でも受け入れてくださり、そういうことが素地としてつながっていくと、何かしらいいものが生まれたりするかもしれません。団体の方も後継者を探していらっしゃるので、そのチャンスも大きくなっていくと思いました。スポーツ団体に関しても同じことが言えると思います。参加者が少なくなっていっている団体もあると思います。例えば、水泳は部活動ではたくさんあるのに、水泳協会とはつながっていないなど、意外な盲点もこういう調査で分かってきます。地域とうまく連携し、一般市民がつながる機会になればと感じます。

○和座委員

私は、健康寿命を延ばしていくことが、今後の重要な観点だと思います。スポーツには健康寿命と密接な接点があります。

特に我々が考えないといけないのは３つあります。１つ目はロコモティブです。女性は骨粗鬆症が多いですから、ストレッチや運動器でのしっかりとしたアプローチなどを考えていく必要があります。

２つ目はメタボリックです。成人病の全てに生活習慣病が関わってくるので、高血圧や糖尿病などはスポーツだけでは難しいので、マイレージ制度と連携しながら、メタボリック対策の運動をどうやっていくのかを考えないといけないと思います。

３つ目は認知症です。この３つが健康寿命と密接に関係していると言われていて、スポーツや体を動かすことが、健康寿命を延ばしていくことになります。

お年を召した人でも生きがいのあるまちに松戸がなるためには、医師会でもいろいろな機会を通して活動してきていますが、スポーツとうまくリンクしながらやっていくことによって、より一層いい取組が社会的にできてくると思います。

特に認知症のところで、今、日本は３人に１人がひとり暮らしをしていると、ひとり暮らしが多く、その方々は孤独です。お年寄りは、クリニックに子どもがいらっしゃると、ものすごく喜びます。みんなが集まる雰囲気があると、認知症にとって非常に重要なことになります。

だから、先ほど山形委員がおっしゃったような、いろいろな社会教育団体に子どもが加わることで、特にお年寄りがすごく刺激を受けると思います。何か仕組みづくりをすることで、多世代が一緒になれる場をつくる。日本もかつては、みんなでわいわいやっていた時期があったのです。そういう時代はもうかつてのものになってしまいました。また戻すわけにはいきませんが、みんなが集まる場所があれば、認知症の軽減にもつながります。そういうことが結局、将来的には健康寿命の増加にもつながると思っています。

○伊藤教育長

小さい公園や学校の校庭がたくさんあります。でも、夜はどうやって使っているかなと考えると、ただ開いているだけになっています。夜間照明の設置について、何年か前に一度考えましたが、今回も話を聞きながら、夜間照明をもう一回考えてみようかなと思いました。というのも、松戸市の場合は、地域に密着して活動できる場所が、工夫しないと生まれてこないと感じます。一方で、森のホールなどの文化施設はありますが、大型のスポーツ施設なども、それはそれで考えないといけないと感じます。

ハード面を考える上でも、多様性を認識した上でそれぞれに取り組む必要があるし、ソフト面でも大きな転換期だと思います。市長もおっしゃられたように、スポーツは現在学校の部活動が中心になっていますが、文化もスポーツも、地域全体のスポーツ・文化環境の中で学校はどう活動するのか、ベクトルをこれまでと逆にして考えたほうがいいと改めて感じました。こうした全体の中で、地域の人はどう動く、教員はどう動くというふうに考えていく必要があります。いろいろなハードルが出てきて、簡単には進まないし、時間はかかると思いますが、ご意見を伺いながら考えていきたいと思います。

○本郷谷市長

ここに書いてある社会教育団体やスポーツ団体の活動は、市内では限定的、一部だと思います。要するに市の施設を使うのに必要だから登録しているだけで、登録していない団体もあると思います。子どものダンス活動もありますし、健康の問題であれば、朝のラジオ体操から始まって、いろいろな団体が活動していると思うので、新しい人達にも開かれた場になるといいと思います。

スポーツや文化は、大変重要な分野だと思います。ハード面についても不足はしている部分はありますが、もっと不足しているのは、ソフト面だと思います。既に活動をしている人たちが活動しやすいような状況、あるいは支援など、組織的にバックアップするということが足りていないと感じます。

例えば、各クラブも自分たちで活動内容の会報を作って配布していますが、限定的な場所でしか配れないし、会員を集めようとしても、やっていること自体やその内容をみんなが知らないという状況があるわけです。なので、活動状況や情報を行政がもっと集めてみんなに周知して、それぞれの人が活動を知ったり、参加や応援をするきっかけをつくったりするなど、市内の活動全体を活発化させる、あるいは支援していくような仕組みが必要だと思っています。それらも含めて検討してほしいと思います。

最後の、地域や大学について何か意見や感想がありましたらお願いします。

○伊藤委員

この資料に記載の内容は比較的最近の動きだと思います。日立物流、柏レイソル、ロッテマリーンズ、NECグリーンロケッツ東葛など、いずれも市長が非常にご尽力されて、それぞれの団体が松戸市といろいろ連携をしていろいろなことをやっていくという仕組み

をつくっていただいて、非常にいいことだと思っております。

一部関係者はもちろん知ってはいると思いますが、一般の市民の人たち、子どもたちには、あまり知られていないような気がします。いろいろな機会に松戸市がこういったことをやっていることをＰＲして、市民に広報していただければ、ステータスのアップにもつながると思います。

○山形委員

信州大学とＪリーグの松本山雅FCが、産前産後のお母さんへの支援向けて、スポーツ開催時に席を用意しているということを、精神科医の村上先生がツイッターで発信しています。産前産後の悩みをスポーツ会場のブースで聞くという面白い取組をされています。

この資料にも子育て世代向けのツイッター発信の話がありました。親子をターゲットに、松戸市の強みである子育て支援＋αのスポーツとして発信していくとか、松戸市だからこそできる親子のためになるような支援があるといいと思いました。

お母さんたちは時間がなく忙しいので、託児付のスポーツ観覧のイベントをやってみるなど、企業や大学との連携・協力で可能性が広がっていくと思います。

この信州大学の例は一つですが、産後のメンタルヘルスケアに関してすごく知見が高まっているので、松戸市もこれを参考にするといいと思いました。

○本郷谷市長

市民はいろいろな活動をしていますし、この活動を通じて、さらに市民がスポーツ・文化の多様な活動の機会につながります。また市民の活躍を、もっと市民に知っていただいて、身近で活躍している人を知ることで、参加への動機付けにもなると思います。

それ以外でも、プロスポーツみたいなものがあると市民が一体になれていいと思います。ずっと模索していますが、なかなか前へ進んではいません。ＮＥＣグリーンロケッツ東葛は、松戸も入った「東葛」がエリアなので、松戸のチームと言ってもいいですが、市民がみんなで一体となれる象徴になればいいなと思っています。

近隣市では、柏はレイソル、船橋はバスケット、浦安はラグビーと、千葉はたくさんあり、市川と松戸が何もないので何とかしたいと思っています。

そして今、課題にしているのは、スポーツや文化は大変重要であり、生涯学習部の生涯学習という視点でスポーツ課などが、経済振興部には文化活動を担当しているにぎわい創造課が、それからプロスポーツチームとの連携は総合政策部が担っています。この分野は非常に大切な分野だと思います。官民が連携してどうやって実現していくか、行政も体制をしっかりしていかないと前へ進まない体質もあると思うので、引き続き考えていきたいと思っています。

○和座委員

松戸は、子育てナンバーワンなどで全国的にもＰＲをしてきましたよね。それは、若い世代が松戸に魅力を感じてもらって、松戸に住んでもらって、そういう人たちが活力を

持っていろいろなにチャレンジすることだと思います。そして今回、スポーツと子育てがどう関わるのかをずっと考えていたのですが、先ほどの山形委員がおっしゃったことが重要ではないかと思ったので、お話しさせてください。

７ページに社会教育団体の記載があります。子どもも、保護者も、様々な興味を持っています。そういう人たちに、松戸市にある団体を知ってもらう。保護者の方々は忙しいので、一緒に活動することは難しいかもしれないですが、知ってもらうだけでも違うと思います。あるいはイベントをＺｏｏｍで見ることができてもよいかもしれないですし、ＳＮＳは重要な情報発信ツールとなります。

先ほど質問した、市ゆかりの選手についてのツイッター発信についても、私は子育ての世代の人たちが、スポーツを通して、もっと豊かな人生を送ってもらいたいと思っています。そうすると、より一層子育てのまちになるので、ぜひ取り組んでいただきたいです。

○本郷谷市長

大事ですよね。なかなかそこまで手が回っていません。子育て世代によいタイミングで情報を提供したり、場所を提供したりしていくことが大事だと思っています。積極的な情報提供も必要だと思います。

○武田委員

少し話がそれるかもしれないですが、先日、博物館で開催されていた「松戸のたからもの展」に、私の中学校の美術部の生徒の模写の実演があったので見にいきました。ワークショップのコーナーがあり、お子さんを連れている親子さんがいたので少しお話ししたら、その親子は、博物館の友の会に入っており、年パスのように博物館に通っていて、私よりも行事をよくご存じでした。松戸の企画展示を、もう何でもいいからとにかく見せるために子どもを連れてくるようです。博物館では、何回に１回の形で、必ずワークショップを企画しているのを全部参加しているそうです。博物館にくれば、家から子どもを引っ張り出して、ゲームとも離すことができますし、子どもも楽しんでくれるから、自転車で通える距離にこの公園があることをすごい幸せに思うとおっしゃっていました。

その話を聞いて本当にうれしくて、親子がワークショップをやっている写真を撮らせていただいたのですが、すばらしい笑顔で写真を撮らせてくださいました。特に団体に属していなくても、環境が整い、それを活用してくれたらいいと感じました。こちら側が働きかけてつくっているものをきちんと活用してくださっている親子に出会えたので、成果が数で出なくても、この親子のここに住んでよかった、その言葉が聞けて本当にうれしかったです。

音楽フェスティバルが近々ありますが、こちら側がいいものを提供すれば、必ず享受してくださる方はいます。松戸では共働きで忙しい世帯も多いので、団体への参加に縛られなくても、イベントなどに参加できて楽しい・うれしいが一つずつ増えることが非常に大事かなと思いました。

○山形委員

和座委員の先ほどのお話、社会団体と親子のつながりの部分で、ジャストアイデアにはなりますが、おやこＤＥ広場に社会団体の方が来て、実践を見せてあげるのもよいと感じました。折り紙の団体もいらっしゃり、折り紙折ったことのない親子もいると思います。あとは、絵画も文化祭で見せるだけじゃなくて、おやこＤＥ広場の一角に市民の方が描いた絵が飾ってあるとか、そういう小さな連携ができたら、よりいいものなる気がします。それをきっかけに、親子で博物館行ってみようとか、そういう部分でつながっていけることが出来れば、いいですね。松戸は広いので、例えば稔台の市民センターでやっているといっても、東松戸に住んでいたら行けないと思います。学校だけじゃなくて地域で文化やスポーツの楽しみがあり、生涯にわたって楽しく暮らせるまちだったら、ここに長く住もうとなってくれると思います。そんなようなことも、動いていただけたらありがたいと思いました。

○和座委員

最後いいですか。とにかく子育ての世代は基本的に孤独な方が多いです。その中で保護者は、いろいろな情報を集めながらやって、そういう子育ての情報・素材は、松戸は多いのですが、僕の現場の感覚では、「まだまだ」と感じます。

おじいちゃん、おばあちゃんが身近に住んでいない人たちが多いと思うので、社会教育団体とつながる中で、子育て世代と高齢者が様々な接触をして、多様性を感じることは、子育ての世代の保護者や子どもの発達にとっても非常に重要だと思います。

○本郷谷市長

今日は何かを決めようとするところではないですが、いろいろ議論は尽きませんね。そろそろ時間となりましたので、今回これまでとします。どうもありがとうございました。最後に、事務局のほうから連絡事項はありますか。

○谷口総合政策部参事

次回の会議の開催日程は、市長部局事務局と教育委員会事務局と協議してご連絡させていただきます。また、引き続き総合教育会議の運営にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。連絡事項は以上でございます。

<u>◎閉　会</u>

○本郷谷市長

それでは、これをもちまして、令和４年度第１回の総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。